

# 農村のデジタル化 Digital land

一奨励政策・農村地域におけるデジタル化のチャンスー

ー 2023・10ー



将来のデジタル農村を担う



農村のコワーキングスペース



農村との遠隔診療

Bundesministerium für Ernährung und  
Landwirtschaft  
ドイツ連邦食料・農業省

# 一 目 次 一

読者の皆さんへ	1
第Ⅰ章 農村地域のチャンスとしてのデジタル化	2
連邦プログラム：農村地域の発展と地域の価値創造	3
奨励政策の「農村.デジタル」	4
第Ⅱ章 農業デジタルの分野における奨励デモンスト	5
レーションの実施結果 2017~2022年      47 課題	
経済・労働・専門家	2 7
小売業とサービス業	2 8
医療サービス	3 0
交通サービスとモビリティ（機動性）	3 2
一緒に住み社会的な結束を	3 4
第Ⅲ章 デジタル化の恩恵から：これがその方法—現地事例	3 5
モデルプロジェクトにおけるデジタルでの課題解決	3 5
タイプ A：情報サービス提供の結びつきのための	3 6
プラットフォーム	
現地事例	
オリエント   地域で生産される食料のオンライン	3 7
市場	
歓迎文化 4.0 人々が集合化そして人口変動を再編	3 7
タイプ B：社会ネットワーク	3 8
現地事例	
ブREMケ集落 デジタル   共存のためのデジタル	3 9
プラットフォーム	
青少年の対話への参加そしてネットワークプラット	4 1
ホーム	

タイプ C   サービス業の仮想化 現地事例	4 2
インターネットベースの心理療法   オンラインに よる行動療法的な心理療法の実施	4 3
デジタル消費者センター   ビデオチャットによる モバイル現地アドバイス	4 4
外国人救急ケーシングヘルパー   レスキューサービスにおけるドイツ語を話せない患者 とのデジタルコミュニケーション	4 5
デジタルゲストカードシステム ウェルカムカード   旅行上の重要なサービス提供と結びついた決済システム テクノロジー	4 6
タイプ D   デジタル イノベーションの普及 現地事例	4 7
農村におけるコワーキング   コワーキングスペースの 設置、アドバイスとネットワーキング	4 8
スマート カーシェア   人と車—農村における カーシェアリング	5 0

2024・5 訳  
青森中央学院大学  
地域マネジメント研究所  
中川 一徹

## 読者の皆さんへ

デジタル化は人々が、直接利用するとき成果があがる。これは奨励政策”農村.デジタル”の多くのプロジェクトが示している。

農村地域のデジタル化のチャンスは、連邦食料・農業省が連邦プログラム農村発展と地域の価値創造（BULEplus）を、900万ユーロ（約13億5000万円）強でもって奨励している。

2017年から2022年の間に奨励分野「農村.デジタル」の分野において、合計48プロジェクトが実施された。地方自治体と郡に並んで、民間企業、団体、総合大学そして専門単科大学が自ら研究し、現実化している。重視する目的はデジタルテクノロジーの支援でもって農村地域の魅力を強化し、そして現地の人々の生活の質を改善することである。その際、焦点は実践におけるデジタルの潜在力とチャンスを試行する。同時に得られた経験と知見、並びにハードルの扱い方を分析する。

そして、そこから将来に向けたプロジェクトのための行動を発展させる。

プログラム「農村.デジタル」の奨励期間の経過の中で、モデルとの結びつきと問題解決の重要性が、今一度明確化される（コロナパンデミックによっても）。これはプロジェクトのあらゆるテーマ分野に広がっている：それは経済、労働そして専門家、社会的な結束と共同生活、健康、交通の利便性、小売業、サービス業などである。

このプロジェクトは、奨励政策の評価とプロジェクトの経験の基づいている。

そして農村地域における政策形成のための推奨事項を与えてくれる。実践事例は適切なプロジェクト実践のために、価値多い刺激をもたらしてくれる。経験の交流とさらなる発展において、生じているアプローチを活発にしている。



連邦食料・農業省編集チーム

5 G ネットワークを農村地域にも拡大



## 第 I 章 農村地域のチャンスとしてのデジタル化

### 農村の多様な課題にデジタル化で対応

交通の利便性、食料等の現地供給、共同生活、労働、教育、医療の課題など、農村地域は様々なテーマ分野における挑戦の前に立っている。その上進行しているデジタル化によって、生活一労働における変化が素晴らしい。

デジタル化の新しい可能性から、農村地域のどの点において恩恵を受け、そして生活一労働条件改善のために、どのような問題解決が可能か。この「農村.デジタル」の可能性は以下のとおりである。

農村のデジタル化のチャンスは、連邦プログラム農村の発展と地域の価値創造 (BULEplus) の領域において試行している。デジタル化は利用上有効な多面的な視点を提供する。つまり、ビデオテレフォニー (ビデオ通話アプリ)、メッセンジャー、ホームページ、アップス (アプリ)、オートマトン (自動販売機など自動装置)、ロボットなど。これら全てデジタルでの課題解決のための事例である。様々な行動分野に投入され、その際要約するとデジタル化の可能性は、以下のとおりである。

仮想化機能 (コンピュータサイエンス) は、時間と方法の節約を可能にする。これは一方ではコストの節約でもある。なぜならば、遠隔診察によって医者が車での高価な診察時間を費やすことがない。この仮想化はより良い分業を可能にする。例えば、医師の費用のかかる家庭訪問や医療行為、医療助手の特別な継続教育を、デジタルに結びつけることが可能である。仮想化で他の事例的な適用分野は、オンライン一商取引きである。

デジタル機能のネットワーク化は、サービス提供を魅力的なものとし、そして追加的な需要を創り出す。1つの事例は機動性の提供である。様々な交通機関の個別事情に拘わらず、旅行ルートを予約し、利用できることで顧客を結びつける。ネットワーク化は、さらにコスト軽減で利益をもたらす。例えば共同の精算システムによって。そして最終的にネットワーク化は、補完的な資源を結集するか、または集中的に利用できる (例えば、ボランティア予算、成長ファイナンス一事業資金、共有プラットフォーム)。

自動化は人間の労働力を必要とする作業を、機械性能に委ねる。例えば自動走行車、情報ロボット、物品販売装置、自動在庫管理または並べ替えなど。

これらは特にコストの優位性、個々の品質上の優位性を可能にする。機械が時間的に品質的に良好な状態で、仕事を片づけることができる。同時にこれを通じてコストの引き下げを実現できる。また、経済的な負担能力の限界を引き下げる。このことによって、低い人口密度に際しても、物品提供を少ない需要にも応じて準備することができる。

### **連邦プログラム：農村地域の発展と地域の価値創造（BULE）**

連邦政府は農村地域を魅力的に、生きがいのあるそして活力ある生活空間を保ちながら、ドイツにおける農村が都市と同等の生活条件を創り出す目的を設定している。このため、連邦食料・農業省はこの連邦プログラム（BULE）でもって、2015 年以来ドイツ全域において農村発展の革新的な取組みを奨励している。2023 年からはこれまでのプログラム（BULE）について、さらにテーマを加え拡大している（BULEplus）。連邦食料・農業省に委任によって、連邦農業食料局（BLE）傘下にある農村開発センター（KomLE）が、このプログラムを具体的に実施する。農村地域における現在と将来に向けた新しい着想（アイデア）と、未来志向的な問題解決を試行し、さらに支援し系統的に評価分析し、そこからの知見を広く普及させる。

これまでの政策に新しいテーマを加えた BULEplus（プラス）の目的は、農村地域発展のために連邦全体に刺激を与え、そして対象とするグループに実用的に適応して編集された知見でもって、長期にわたる効果を与えることである。奨励された計画からの知見は、必要な知識と実践的な推奨事項を提供する。これは成果多い構想を他の地域にも移転するためである。優れた着想を地域を越えて移転しプログラムの効果を広め、テスト一行動そしてさらに研究の必要性を明らかにする。また、連邦一州レベルでの将来的な政策立案に、これら知見を組み入れる。そして農村発展の定期的な奨励を改善することにも用いられる。

## 奨励政策の「農村. デジタル」

「農村. デジタル」奨励政策でもって、連邦全域で 48 のモデルデモンストレーション計画を、2017 年から 2022 年までの間に 850 万ユーロ（約 12 億 7500 万円）でもって実施している。全体で 61 のプロジェクトマネージャーが、個別または関連プロジェクトにおいて、自らの着想を強化するためにその地域の共同生活者とともに活動している。テーマ分野と取組み（アプローチ）の多様さは、感銘を与えるものである。プロジェクトの着想は、デジタルネットワークからオンライン市場販売システム、交通機動性の解決などをデジタルで支援する。

## モデル地域の位置図

44 の現地プロジェクト 4 の連邦全域プロジェクト 合計 48 プロジェクト



## 第Ⅱ章 農業デジタルの分野における奨励モデルー デモンストレーションの実施結果

2017年～2022年

NO	連邦プログラムの領域における農村の発展プロジェクト (奨励額 20 万ユーロ・約 3 000 万円まで)	
	プロジェクト名・実施場所	プロジェクトの内容
1	<p>A.I.R.ー Aktiv in der Region</p> <p>地域におけるボランティア活動をインターネットサイトで効率化</p> <p style="text-align: center;">ノルトハウゼン チューリンゲン州</p>	<p>・インターネットと APP の支援でボランティア活動を検索する。プラットフォーム上には、公共施設、協会、組合、教会そしてイニシアチブといった組織で、ボランティア活動の場を提供している。将来的には、地域を越えたプラットフォームに結びつける。ボランティア活動の提供と公共施設等での要請をマッチングする。このプラットフォームは、両サイドの機能を提供する。労働の提供ー需要について、適切な検索を容易にする。その際、この情報の質を高めるために、フィルター機能が役立つ。ボランティア活動の必要性に際して、各団体は活動の投入分野、活動時間、要望等をプラットフォームに蓄積する。ボランティアは、自分のプロフィール、関心のある活動分野を作成しアップする。ノルトハウゼン郡のこのようなプラットフォームの作成は、これまで個々の村々と集落の個々の要望をアップしている。そして今あるボランティア構造に対して、目的に応じて突き合わせる。</p>
2	<p>Apotheke2.0</p> <p>農村での中心的な健康ガイドとしての現地薬局ーアナログとデジタルの可能性の発展</p> <p style="text-align: center;">シュタインフルト郡 ノルトラインーヴェスト ファーレン州</p>	<p>・構造的に弱体な農村地域の人々のために、意義多いケアの提供を確保する。そして農村地域における「薬局の死亡（閉店）」に対応するために、さらに薬品の供給を保障すべきであり、そして薬局のサービス提供を拡大する。同時に介護施設、または恒常的に長期の入院を避けることができる。固定された薬局は、農村における広範な健康提供のために、その役割が強調されている。その際、デジタルでの健康提供は、人間的なコンタクトの代わりになり得る。また、健康提供における仕事の簡素化と補完に、有意義に用いられる。このプロジェクトは 4 つの礎石から成り立っている。</p>

		<p>① 横断的なコミュニケーションのためのデジタルで問題解決を改善する。</p> <p>② 新しい介護—公衆衛生制度のモデル：一例えば、拡大した宅急便での薬の配送または新しいタイプの医療上のアドバイスモデル。</p> <p>③ 薬局研修：例えば特定のデジタル問題解決のために薬局の評価を向上させる。</p> <p>④ データ分析：課題解決に役立つ知見に基づく賢い分析による全体的な患者データをもたらすことができる。</p>
3	<p><b>BOLD</b> —デジタルテクノロジーの支援でキャリア指導の案内</p> <p>シュバルム—エーダー郡 ヘッセン州</p>	<p>・この郡の学校において学生の個々の時間や場所に、とらわれない職業案内指導を行っている。</p> <p>これは多言語教育を強化するために、そして郡において予想される専門家不足に対応するためである。学生達はこのプロジェクトを通じた職業紹介プログラム（BOP）への参加、実習場所の選択に際して実習組織のデジタル化で支援される。個人々の努力での学校卒業に、<b>BOLD</b> プロジェクトへの依存は、学生達並びに両親と教師が学校—職業への可能性を信頼している。その際デュアル教育（学校と農場実習の交互にトレーニング）に焦点をあてている。このプロジェクトの随行とアドバイスは、デジタルで実施されるが、長い時間かけるのではなく、短時間で提供することが不可欠である。なぜならば、地域内の教育提供を視野にしたとき、小—中規模企業が多いからである。この<b>BOLD</b>-プロジェクトは、より多くの学生がこれまでのデュアル教育よりも早く、多く学べることに貢献する。</p>
4	<p>連携プロジェクト <b>bremke.digitale</b> ブレムケ村における デジタル化</p> <p>ブレムケ村 ニーダーザクセン州</p>	<p>・ブレムケ・デジタル計画は、村の共同生活奨励のためのデジタルサービス業の活用によって、より高品質な食料の獲得のためのモデルの最終適用を含んでいる。そしてそれは村の共同生活奨励のために、「思いやりのある村」の意味において実施されている。村の中における議論と参加プロセスは、現地の人々が問題をもって協会とイニシアチブとともに、住民の視点からインフラ構造を見直しする。</p>

		この村においては、デジタルサービスとアプリケーションの活用によって、生活の質的向上と村の共同生活促進のコンセプトの開発とそれの展開がなされた。この成果は、他の農村自治体へと移転される。このプロジェクトの目的は、デジタルコミュニケーションへの住民参加を促進し、社会的そして近隣の村の生活向上である。
5	<p>・ DICTUM-Rescue</p> <p>レスキューサービスにおける難民患者とのコミュニケーションを支援</p> <p>ヘルムシュタット郡 ニーダーザクセン州</p>	<p>・ 農村地域における救急サービスのための E-健康ネットワークウェアを試行し、そして評価・分析する。これは地域における広範な異文化間の環境における医療—患者—コミュニケーション改善のためである。リューネブルグ大学の研究プロジェクトの一環として、ソフトウェア 2015 からの試作品を開発した。一般診察上難民の医療上の介護において試行している。今あるプロジェクトは農村地域におけるレスキューサービスの分野に関して、革新的なきっかけで適用される。</p> <p>これは農村地域に通訳の少ないことから、全くドイツ語を話せないか、僅かしか話せない人々に対して特に緊急時でない時にこれを用いる。</p> <p>タブレット上でこのコミュニケーション—ソフトウェアを手段として、搬送中に症状の治療を行い、患者の評価を分析する。病院に到達する前に、ビデオ—音声ベースに患者への質問と回答でもって症状の確認を行う。目の見えない人とのコミュニケーションを支援でき、他方方言形態が画像化される。書き言葉は適さない。</p>
6	<p>” DiNeNa” ハウル郡におけるデジタルネットワークで食料を提供</p> <p>ハルツ郡 ザクセン—アンハルト州</p>	<p>・ ハルツ郡における地域内移動及び固定した食料の現地供給のネットワーク化による最適化を促進してきた。移動または固定した場所での食料提供は、デジタル活用の新しい可能性によって支援され、そしてネットワーク化されている。例えば、共同での新しいサービス提供、オンライン—注文システムの確立と調整されたシェア—計画、共同での新しい製品の提供など。同時に提供製品への住民のより良いアクセスを達成している。この成果は全住民に快適なそして長期にわたる公共サービスプロバイダーの回線をインターネットに繋ぐ。</p>

		改善されたことで経済的な高性能を生んでいるので、高度な付加価値と機動力の提供の長期的な確保を生み出す。新しい共同を組立し、特に地域産物を考慮に入れている。
7	<p><b>DigCoM</b> 農村地域のプロジェクトグループのためのデジタル支援</p> <p>アルトマーリッシュ ブランデブルグ州</p>	<p>・農村地域におけるプロジェクトグループのための適切なモデレーション（調整）方法選択のためのデジタル支援が開発された。村の共同体計画の実施に際して、APP を手段としてデジタルビデオによって支援される。これによって事前の準備と実施が容易になり、高品質なデジタル共同調整がなされる。デジタル共同調整の支援でもって、農村イニシアチブの活動決定構造が改善された。</p> <p>地域を越えたプロジェクトの調整は、開催されている継続教育の中で、様々な地域と分野からのボランティアの人々が学び知る。相互の刺激を可能とし、それでもって革新的なアイデアの拡大が可能になる。関連した学習プラットフォームの APP でもってこのネットワーク化が奨励される。同時に事例と手本が早急に拡大される。</p>
8	<p><b>Digitale Dorf.Mitte</b> デジタルが村の中心ー 村々がネットワーク化で1 つの地域に</p> <p>ビットゲンシュタイン ノルトラインーヴェスト ファーレン州</p>	<p>・村のアイデンティティとコミュニティ形成地域のための村の中心地の活性化強化は、情報ーコミュニケーションテクノロジー投入を通じて、村共同体の懸案事項を解決している。地域的、そして”デジタル村”の技術的な具体化は、地域的な総合戦略の一部であり、村のモデルとして組み立てられた。伝統的な村の中心地（例えば、村の店、食堂ー宿屋兼業のガストハウス）は、デジタルの村と多機能ハブとして、新しい役割を手にすることができた。同時に村住民のバーチャル（仮想）ネットワークも可能になった。これに関しては、今あるプラットフォームとの共同で、デジタルプラットフォームが並列される。また、デジタルで支援された公共サービスの提供とモビリティ（交通）も発展している。さらにインターネットカフェを併設した村の店、コワーキングスペースそして他の全ての村のプラットフォームを組合わせている。</p>

		”村.中心”のプロジェクトは、村内におけるデジタル技術を効果的に利用する、人材育成システムを拡大する目的をもっている。そして地域のネットワーク化と全体的に早急にデジタル化の発展と、デジタル技術を地域住民に習得させている。デジタル技術の活用にあたって、参加する住民の専門的な知識奨励が、プロジェクトの中心的な基盤を形成している。
9	<p>DSL-認知症：デジタル化 介護ロボットの投入で農村における認知症の問題解決 (キール応用科学大学が協力)</p> <p>ヴェーゼルマッシュ郡 ニーダーザクセン州</p>	<p>・デジタル化のチャンス認知症問題の提起と結びつける。これによって需要に応じた問題解決の進展を生じている。このプロジェクトは3つの分野に区分される。</p> <p>① デジタル支援方策の開発。例えば、家族とのコミュニケーション、年齢に条件付けられた孤独の減少並びに社会的な行事への参加、医学上のそして介護上の支援、認知症の患者の逃避傾向への対応</p> <p>② 家と介護施設における介護ロボットの投入。このプロジェクトは特に介護における人工知能の活用意識の向上</p> <p>③ キール応用科学大学が協力パートナーとして、ロボット工学ワークショップを提供している。このワークショップの特徴は体験教室である。</p> <p>介護ロボット「EMMA」は、デジタル化を具体化し、関係者の不安を軽減している。これには高齢者施設の管理者、家族介護者、高齢者自身が参画している。</p>
10	<p>連携プロジェクト ”DiNa” ヴァブルク村デジタル近隣援助</p> <p>ヴァブルグ村 ノルトラインーヴェストファーレン州</p>	<p>・この村ではコミュニケーション プラットホームが開発されている。可能な限りスマートフォン APP を通じて、簡単に近隣援助が可能になっている。デジタル化の可能性の活用によって、近隣援助と「物々交換リング」の成果ある足がかりを、デジタル時代に応じて手にできる。日常生活における実践的な支援、毎日の生活においてあらゆることの世話に際しての支援、車の同乗支援と外出援助、庭園の手入れといったことなど、極めて重要である。この計画は地域のローカルネットワークで促進される。</p>



		新しい付加価値によって発展し、市民的なボランティアと革新的な情報コミュニケーションを用いて、強化される。目的は村民の持続可能な生活の質的な向上である。
11	<p><b>Dorfkomsum Plus</b> 農村の「村の店」オンライン化による地域活性化</p> <p>メクレンブルギッシュ メクレンブルグーフォアポ ーメルン州</p>	<p>・農村地域において毎日必要とする食料と物品供給の可能性確保のために、村の店の支援と強化が必要である。日常品供給の分野において、将来的にデジタルでも供給されるべきである。このプロジェクトの分野において村の各店のために、個々に設計されたオンライン一店のポータルサイトが、現在どのような物品状況になっているか、その状況を作成している。村の全店が共同経営上のデータバンク（APP）に導入されている。顧客は APP で店と物品提供のネットワーク上で把握し、これを注文・購入そして支払いができる。</p> <p>APP で近代的なショップシステムのもつあらゆる利用機能を活用できる。</p>
12	<p><b>Dorfwohnen digital</b> 市の行政上の小地域の人々をデジタルで結ぶ</p> <p>レイヒスホーフ ノルトラインーヴェスト ファーレン州</p>	<p>・デジタルプラットフォームは、地域内の近いところでの物品供給並びにインフラ構造とその拡充に役立つために、市の行政上の小地区内の人々のネットワーク化を進めた。これを通じて高齢者を含めた各個人を支援し、社会的に信頼性のあるインフラ構造を構築した。Lia-共有アパート（シェアアパート 家族関係の無い数人が共有住宅に同居するスタイル）モデルでアプリを開発し、様々なツールと互換性をもち、簡単に操作または変更できる。このアプリの支援でもって、デジタルとアナログのネットワークで全ての参加者との交流が出来ている。従って健康維持、交通そして近場での物品供給—購入が可能になり、地域の関係者及びプロバイダー（インターネット接続事業者）が相互に結びついている。作成されたモデルは、市内全域で便利なツールとなっている。機動性の低下（交通の不便化）は、デジタルネットワークによって解消された。さらにアプリは聴覚と視覚の相互交換を可能にし、地域内の共同体生活への参加を保障している。</p>

13	<p>連携プロジェクト ” Drei-IT” デジタル IT ーシステム 地域のペイバックシステムの導入</p> <p>エバーベルグ郡 バイエルン州</p>	<p>・デジタル-ペイバックシステム（払い戻し）が導入された。これは地域の持続可能な発展のために、住民の貢献が報われるべきである。地域住民が地域産物によって利潤を得るために、デジタルでの個人的な口座入金ー払い戻しシステムが導入されている。これはバーコードスキャナーを伴ったカード、QRコード又はチップ（デジタルIDカード）でもって、実施されている。例えば、「地域ポイント」でもって収入、産物購入、電気料金の支払い又は太陽光など自然エネルギー生産収入、ボランティアとの契約、村の政策利用支払に利用されている。また、地域ポイントの可能性：産物の納入割引、サービス業務に対する支払いー交換、団体への寄付、文化的な生活のため低所得者向けの文化チケットの提供（音楽会、演劇などの割引き）</p>
14	<p>連帯プロジェクト EAT ー Regional 食ー地域 特産品をデジタル管理ツールで販売</p> <p>バーデナー ビュルテンベルグ州</p>	<p>・農村地域における余暇ー教育政策：地域的にそして持続可能に地域産品を提供する（特に食料の分野において）。この計画は農村地域における余暇（宿泊施設）並びにキャンプ場のあるモデル地域に基づいて対象となっている。優れたボランティアリーダーが、デジタルによって支援される。</p> <p>これは高品質な産物の提供（特に食料）によって保証される。高品質性は地域産物（最寄りの自己販売者）、並びにシール添付産品（有機産物ないし公正取引産品）によって保証されている。</p> <p>さらに地域で今ある産品供給構造は、系統的に把握されており、需要に結びついて販売されている。現地のイベントの送信は、地域産物提供者を識別し、有資格のボランティアが広範なデジタル管理ツールでまとめている。</p>
15	<p>・連携プロジェクト FaKraftNeu 連携プロジェクト： 教育ー労働市場改善のポータルサイトの開発</p>	<p>・専門家のために教育ー労働市場の可能性改善のためのポータルサイトを開発した。これは地域を経済的に強化し、商取引きを活発化しそして地域を全体的に魅力アップさせる。専門家、企業と並んでポータルサイト「強い職業」がキャリアスターターに活用される。</p>

	<p>Neumarkt Bayern</p>	<p>自ら管理する応募者プロフィールを、地域の企業に紹介している。一方、企業は研修センターを公開し、職業応募者を積極的に探索している。さらに職業を求めている人と提供する人が、マッチするというスローガンに基づいて、申込者がリストアップされる（いわゆるマッチング方法）。</p> <p>この「強い職業」は、専門家、スペシャリストそしてエキスパートのための、地域労働市場を描く。そして全ての労働市場参加者のために、デジタルで中心的な出会いの場を創出する。</p>
16	<p>・HO2 – 2つのホームオフィスで実証 農村で交互テレワークとモバイルワークの就業形態の確立</p> <p>オーデンヴァルト村 ヘッセン州</p>	<p>・オーデンヴァルト村の魅力と企業の求める労働力（特に高度な専門家）は、交互テレワーク（会社のオフィス勤務と在宅勤務を組合わせた労働形態）の効率的な活用、さらに付随してモビリティコンセプト（企業への移動手段の構築）でもってのモバイルワーク（固定した職場無しで仕事を行う）でもって確保する。働く人も企業も可能性を求めている。家で働き、そして企業とで交互にテレワーク、さらに固定したオフィス無しのモバイルワークが、将来の新しい労働形態として成果を示している。</p> <p>① ホームと企業との交互テレワークモバイルワークのための企業の活性化と意識向上 ② 農村における将来を指向した雇用者市場（雇い主としてのイメージ向上の企業活動）の強化・拡大 ③ 企業のデジタル化の度合い向上</p>
17	<p>・Hutti macht mobil ! ヒュッテイ山地でモビリティ デジタルプラットフォームによる住民の交通ニーズに対応</p> <p>ヒュッテイ山地 シュレースビッケー ホルシュタイン州</p>	<p>・住民のニーズに応じた通路ルート利用の最適化。全体的な交通手段のデジタルプラットフォームが準備されている。あらゆる地域において移動手段の選択肢の活用を、このプラットフォームの中で統合している（例えば車の相乗り、カー及びバイクシェアリング、市民バス、村の移動手段、公共交通期間）。地域において今ある移動手段の利用方法を改善する。モビリティ提供の改善に際して、重要な観点は、住民の安全輸送に対する強い要望である。</p>

		特に個人ベースに対する要望が需要である。利用可能な交通手段と当面する需要照会を、柔軟に調整する。そして交通手段に対する個々人の要望に対応する。この中での目的は、走行時間と乗り換え時間の最少化である。今後は全てのプロセスをデジタルで処理することである。住民の輸送要望に際して、これまで必要な支出を、ボランティア参加を明確にして減少させる。
18	<p>連携プロジェクト</p> <p>私はここに住んでいる。 農村地域のスマートモビリティ構想のデジタル化でチャンス</p> <p>グラフシャフト ベントハイム郡 ニーダーザクセン州</p>	<p>・農村のモビリティ（機動性）拡大のためのデジタル適用による新しいサービス業の提供は、生活の質を改善し、人口変動のネガティブな影響を打ち消している。この計画は農村地域における全世代を通じた独自のモビリティを増加させ、そして公共交通機関利用の障害を取り除く。地域のモビリティ提供は、ボランティア参画によっても拡大され、そして利便性提供のためのアクセスを改善している。</p> <p>① オンデマンド・市民バス輸送の定期輸送から地域密着輸送へのさらなる発展</p> <p>② 公共輸送による小荷物輸送を含むサービス範囲の拡大</p> <p>③ 乗客情報と公共事業、医療及び介護業界の既存組織プログラムとの統合</p> <p>④ バーチャル旅行コンパニオン（同行者）の開設</p>
19	<p>ILE.Digital</p> <p>対話式オンラインプラットフォームで地域の情報提供</p> <p>イルツアーラント（11 の自治体で構成されている統合農村開発地域） バイエルン州</p>	<p>・対話式オンラインプラットフォームが開発された。対象グループに地域的に広範囲に詳しく情報提供する。特に地方自治体の行政上の手順と管理運営を制御する。コミュニティの研修を通じて、地域データと情報を個人だけでなく、地方自治体または特定の公共施設（学校、研究所など）だけでなく、コミュニティ（市民、関心をもつグループ、会社など）にも、対話式に実施される。また、行政的にも追加される。このプラットフォームの内容は、特に 3 つのテーマ分野、つまり モビリティ（交通手段）、ボランティアそして現地供給（生活必需品）を内容としている。重要なことはボランティアとオンライン管理システムである。</p>

		特にプラットフォームは、現地供給とその提供品、輸送計画、会社の輸送オファーの仕事、インターシップの情報（若い人の実習情報）求人情報、教育情報、不動産情報等が含まれている。
20	<p>・ Internet Psychotherapie</p> <p>インターネットをベースとした精神療法</p> <p>マインーシュペスザルト バイエルン州</p>	<p>・ 病院が現地での医療提供する際に、インターネットをベースとした精神療法を実施している。これは農村地域における精神障害者の介護と医療供給不足に対応した新しい方法である。このプロジェクトによって、動けない患者、病気の後退傾向をもった患者、公共の場における広場恐怖症患者、家にいる一人親（別居）等を、インターネットを通じて診察する。インターネット精神療法のもとで、この場合オンラインで実施される。現地の介護（例えばかかりつけ医）との共同で実施されるのは自明のことである。その際、これの実施はビデオ診察によって、確実な機能（256-ビット暗号化）で行われる。</p>
21	<p>・ lot — pilot</p> <p>革新力強化のためのモノのインターネットプラットフォーム</p> <p>トリアー地域 ラインラントプファルツ州</p>	<p>・ このプロジェクトの目的は、小さな町における中小企業の革新力の強化のための全体的なアプローチの実現にあった。実施している経済的、社会的なデジタル転換に際して、モノのインターネット（lot）は、ビジネスモデルと多くの新しい応用アイデアに関するベーステクノロジーを形成する。このプロジェクトの中には、高速一試作モデル作成のために、ドイツ商工会議所（IHK）との共同でトレーニングプラットフォームでのトレーニングが含まれている。</p> <p>1 企業インターン：モノのインターネット継続教育。これはトリア商工会議所との共同テーマ分野 lot における中小企業用の研修プログラムの開発</p> <p>2 地域の小企業における高速製品モデル作成。これはイノベーション促進をもって、新しい持続可能な営業モデルを安定的に生産できる。</p> <p>3 企業個々の必要性に応じて適用する。</p> <p>4 地域企業のデータをベースとした地域企業の営業モデルの作成</p>

22	<p><b>KomPlat</b> ー高齢者のための コミュニケーション プラットフォームの設立</p> <p>ブレース村 ニーダーザクセン州</p>	<p>・デジタルプラットフォームの開発と適用、それへの参加、自立そして生活の質的向上を支え改善する。同時に家庭的、村落的の共同体における一生の在り方のために貢献する。コミュニケーションプラットフォーム ブレース (村) は、家庭的、村落的の共同体における高齢住民グループの一生の在り方に貢献している。このプラットフォームは、村のコミュニケーションセンターによって、調整されている。これは村の多機能ハウスに設置されている。既にボランティア活動によって、活動分野「我々はあなたのためにーブレース村の古い発展」を、実現できている。特に高齢者に適した条件で使用できるタブレット装備は、高齢者のプラットフォームの利用を助ける。高齢者は日常における実践的な援助によって、ビデオ電話で村の中における対話に参加できている。</p>
23	<p><b>Langer zu Hause LEBEN</b></p> <p>老後は自宅で長生きをーデジタル技術の新しい可能性でもって。</p> <p>ザールプラッツ郡 ザールラント州</p>	<p>・自宅で社会的に結びつき、安全で快適に長生きする老後の生活ガイド。デジタルの新しい可能性でもって社会的なサービス業と結びつきで、高齢の人々の生活を可能にする。長期間自宅に住み、社会的な環境の中で生きていける。</p> <p>ザルツプラッツ郡の7つの地方自治体が自らの課題としている社会的、人口的な変化の中でもネガティブな影響を減らす。重点は”老後は自宅で長生きを”でもって、農村地域における生活の質的向上の魅力とその確保である。そのために、地方自治体の公共サービスの新しい種のネットワークが生まれた。ローカル企業、社会経済、医療機関並びに市民社会、さらに町と農村との間の結合関係が強化される。この目的実現のために、トランスフォーメーション(変革)プラットフォームモデルとして確立し、組織化する。これには、デジタル化の新しい可能性を用いて、全てのパートナーと社会技術の革新(例えば AI ロボット投入による収穫作業の自動化と負担の軽減)の共同作業が含まれる。</p>

		<p>1 郡内におけるモデルとコミュニケーション構造の強化</p> <p>2 スイートホームテクノロジーによって、家をどこからでも制御する技術の適用。例えば家電設備をモノのインターネットに直接つなぎ、外から携帯電話でコントロールする。</p> <p>3 家族、隣人、村落共同体そしてプロのサービス提供者をつなぎ、高齢者のための社会ネットワークコミュニケーションの構築</p>
24	<p>・ LOHR-OnPlan</p> <p>市内の商店やレストラン、市民及び市当局とのデジタルプラットフォームの構築</p> <p>ロール アムライン市 バイエルン州</p>	<p>・ 地元の個人商店の立場を強化し、市中心部から周辺地域の遠い道のりを無くすために、市民、商業者、レストラン、サービス業等、市当局との間のネットワーク化と相互作用を起すために、デジタルプラットフォームを構築した。今あるインフラ構造を全ての関係者とネットワーク化と、これの賢い活用を図る。これによって現地での具体的な利用者の関与のもとに、市と周辺地域の多面的なサービス供給機能を持続的に確保し、距離感を解消する。</p> <p>1 多面的なサービス及び商品のスムーズな提供</p> <p>2 オンライン内容での市民との結びつきの強化</p> <p>このプロジェクトの多様な機能でもって、市中心部と周辺地域の市民を、必要に応じてそして快適にオンラインプランの成功結果に結びつける。</p> <p>このことを通じてさらに地元企業の強化を図り、就業の場の衰退を無くする。</p>
25	<p>Community Collaboration</p> <p>小さな町でのコミュニティ共同プラットフォームの設立</p> <p>マーリエンベルグ町 ザクセン州</p>	<p>・ APP のコミュニティ共同プラットフォームは、村における多くの関係者のために、ユーザーをつなぐユーザーインターフェースとして開発された。この成果は成果多く設立されたアナログ「私のマーリエンベルグーカルテ」と呼ばれている。これまで 3 本の柱が設置されている。</p> <p>① 町全域の顧客維持プログラム</p> <p>② 町内の購買を結びつける町のデジタルギフト券</p> <p>③ アナログプラスチックのポイントカード</p> <p>この 3 本の柱は、今は全てデジタル化されている。そして APP「私のマーリエンベルグ」でもって、機能が強化された。</p>

		<p>この APP は情報提供だけでなく、予約、注文そして報告し、その他多くのことができる。特に以下の機能が導入されている。例えばジュニアパス、小遣い機能、イベント機能、総合的な予約システム。社会的な施設とプロジェクトのためのチャリティ機能、ローカルレストランノパートナーのための「胃の機能」、またはローカルサービスプロバイダー（提供者）のアポイント機能など。このプラットフォームを通じて、ローカル経済循環を、持続的に強化している。</p> <p>人口統計上そして構造的な弱体化にも拘わらず、多様な商業—サービス業—文化—余暇の提供が準備されている。同時にこの町における生活の質的向上とそれの維持に貢献している。</p>
26	<p>・ Mein Rhein-Lahn-Kreis 55 plus</p> <p>55 + の高齢者に適した地域ネットワーク</p> <p>ライン—ラーン郡 ノルトライン—ヴェストフ アーレン州</p>	<p>・ 高齢者に適したそして重要な情報を提供する APP の作成ないし更なる発展は、ライン—ラーン郡の 55 歳+以上世代のネットワークの奨励と社会的な参加を促進する。” 私のむら 55 +” は、55 歳以上の世代と古老の共同の日常生活と、社会的なネットワーク化に役立つ。これはこの村において非常に成果多く、そして既に APP の更なる発展並びにライン—ラーン地域において空間的に拡大されている。その際、APP は高齢者の対象グループを、村社会に積極的に取り入れることを支援する。</p> <p>これはイベントとその期日の情報をと提供し、同じく関心をもつ人々と知り合うことに貢献する。例えば、共同で活動に参加するために。</p>
27	<p>・ Mobiler Marktplatz 4.0</p> <p>小集落でのプラットフォーム「モデル市場 4.0」で高齢者への多様な供給</p> <p>ザルツランド郡 ザクセン—アンハルト州</p>	<p>・ 農村の小集落において食料を近場で供給確保する。様々な地域的サービス業（供給、物流、モビリティ）の間で、オンライン—支援ネットワークプラットフォームは、需要と供給のネットワークの改善を行っている。プラットフォーム”モデル市場 4.0” で、ザルツランド郡に様々な供給と結びつけている。玄関のドア—までの配達と居住地での基本産品（食料、飲み物、家庭用品等）の供給で、必需品を入手できる。利用者は、それぞれの居住地で産品と交通サービスを決定できる。</p>



28	<p>連帯プロジェクト nearbuy-農業、輸送プロセス の接点・地域の食料供給の ためにデジタルの応用</p> <p>ノルトヘッセン ヘッセン州</p>	<p>・情報交換を可能にし、その際共同の仕事をコー ダイネート（調整）するために、地域の食料供給 の関係者を結び付けるソフトウェアを開発した。 デジタルの応用は、2つの異なるものを接点でつ なぐインターフェースでの問題解決策として、地 域の食料供給価値創造チェーンを、関係者のため に開発された（地元の食料生産者、食料輸送車）。 この接点を通じて今ある EDV-システム（電子デ ータ処理）と結びつける。産物の販売、流通そし て調達ロジスティクス（商品の購入から入庫まで） は、アプリケーションで互いに結ばれている。 メディアの不連続性（あるプロセスから別のプロ セスへの移動中に生ずるエラー）を除去し、そし てシステムと関係者間のコミュニケーションが 簡単にできるか、ないし可能にする。 地域の取引プロセスは使用しているシステムを通 じて、中心的に処理されそしてつなぐ利用者の主 要一ビジネスプロセスの中に組み込まれる。今後 の視点はさらなる関係者、例えばレストランまた は小売業者を含めることである。</p>
29	<p>Drei-KOM デジタルコン パス</p> <p>デジタルソリューション(課 題解決)で地域ポイント システムの開発</p> <p>エーバースベルグ地域 バイエルン州</p>	<p>・農村地域の振興を持続的に促進するために、デ ジタル技術を活用する出来るのか。このため、農 村住民とのコミットメント（約束）を可視化し、 これに報いるために、長期的なデジタルポイント システムを開発してきた。具体的にはレギオポ イント（地域ポイント）システムの構築である。農 産物など地域産品の購入、地域で生産した太陽光 など自然エネルギーによる電力生産またはその 購入、ボランティア活動への参加、地域政治への 関与などについて地域ポイントを受取る。取得し たポイントは、様々な形で引き換えが可能である。 例えば、地域の産品やサービスの割引、団体へ の寄付、低所得者の文化活動を支援するための文 化チケットの購入支援等に活用できる。</p>

30	<p>NETREG ー地域のネットワーク化プラットフォームの設立</p> <p>マールブルガーラント地域 ヘッセン州</p>	<p>・特別な社会ネットワークは、LEADEA ー地域（欧州農村開発農業基金によって指定された農村開発地域）、郡、組織を、このプロジェクトにおいてオンライン化し、ネットワーク化を実現した。</p> <p>そしてこれを互いに直接体験し、知識の交流が可能になっている。”地域ネットワーク化”でもって、プラットフォーム、インターネットそしてコミュニケーションテクノロジーを、賢く互いに結びつけている。そして地域でコスト的に良好に、効果的に目的に叶った共同活動を可能にしている。</p> <p>ライブ オンラインー形式での学習、オンラインー講演会、目的に応じた地域的に特別なコマース、イベント開催のヒント提供と検索といったような、ネットワーキング（異業種交流）は、プラットフォームの援助で可能となっている。</p>
31	<p>連携プロジェクト ”ORIENT” 地域生産食料のオンライン市場の強化</p> <p>シュテンダルク地域 ザクセンーアンハルト州</p>	<p>・古い市場の荷物扱者のための新しい直売形態の開発：ORIENT”計画でもってシュテンダルク地域のための「地域オンラインー市場」の産物パレット拡大を進めている。ここでは冷蔵義務のある食料、標準化されてない産物（例えば手作りのハンドチーズなど）を扱っている。これらの業務は簡単にそして販売者も顧客も、満足できるものである。第2に物流システムを開発しなければならない。つまり、生産者からの産物がピックアップされ、そして顧客のために本部での一時保管無しに直接届ける。その際、産物の冷却が確保されねばならない。このような物流システム開発のために、予約と出荷の自動的な処理、クーラー並びにルート最適化システム（適切なソフトウェアの選択）もまた重要である。</p>
32	<p>Pionier Oberfranken オーバーフランケン地域の パイオニア 地元企業と大学の共同で地域のデジタル化推進</p> <p>バンベルグ バイエルン州</p>	<p>・オーバーフランケンのメディアの交流プラットフォームは、デジタル設立を重点に生まれた。その際、編集上の仕事支援でもって設立企業が支援される。地域の会社が、良く知られそして可能な共同パートナーを見い出している。ページの中心は、調査した歴史と様々な設立のテーマであった（プロジェクトニュース、ポートレート、生活と仕事、デジタル化、社会の傾向、スタートアップ）</p>

		<p>加えて経済、科学そして始動との間の結びつきを創り上げることが、プロジェクト一構想の中に含まれている。企業と大学は、このプロジェクトと研究テーマをこの中に提起し、この中から共同活動を実践することができる。全般的にイノベーションの潜在力と同時に、地元での結びつきの魅力が地域の専門家を、リーダーとして育てている。それによって高品質な労働力と頭脳流出をストップさせ、オーバーフランケンにある4つの大学の出身者を引き留めている。このことによって、革新の力を強化しそしてデジタル化プロセスを、奨励することができる。</p>
33	<p>・ Pimp yuor Region あなたの地域を PR 農村地域への参加一ネット ワークプラットフォーム</p> <p>ビルケンフェルト郡 ラインラントー プファルツ州</p>	<p>・ この地域には対話方式での参加一情報プラットフォームが設置された。地域の生徒、学生に自助のための援助がもたらされた。企業におけるこのプロセスの過程で、学校と自治体がスポンサーの支援によって、きっかけを与えられ、そしてネットワークを構築した。これは既にあるプラットフォーム「ビタミン BIR」に統合され、成果多くネットワーク化された。そしてここでは、生徒、学生から提案されたプロジェクトとメンタリング（1人対1人の対話型の人材育成方法）計画を、企業または協会が支援する。ウェブサイトの支援をもって、農村地域における生活一労働関係の改善のためのアイデアを提案し、迅速かつ簡単に送信し、共同で実装する。参加一コーディネーターは、適切なパートナー団体、パートナー学校またはパートナー企業そしてイニシアチブの多くの参加者との対話において、持続的に支援される計画を策定する。長期的に協会、企業そしてイニシアチブは、より多くの加入者または応募者を得て、強化される。同時にオンラインプラットフォームが、研修生の中で交流を生み出す。</p>
34	<p>・ Praedi/co 村の多機能ハウスにコーワーキングスペースの開発</p>	<p>・ 広範な総合プロジェクトの一部として、コーワーキングスペースを開発し、村への居住プログラムを伴った歴史的な大農場の改築を行った。村とその周辺地域のための社会的、職業的な刺激を与える。</p>

	<p>プレーダイノウ ブランデンブルグ州</p>	<p>計画の中核は、農村地域におけるコワーキングスペースの建設と試行である。デジタルでの労働方法のための今あるインフラ構造のお蔭で、農村地域の現地での仕事が可能となり、そして営業活動に刺激を与える。そして有資格の専門家の村への移住を促す。コワーキングスペース、計画しているワークショップ、セミナー並びに町と村の保有している高度な能力と手段は、会議、実験・試験圃、テストスペース、新しい産物/サービスと農村生活の革新的な形態を創出する。事務所と談話室は、地域の団体、住民、学習グループ、自営者そして従業員と共同で使用する。既に計画一建設段階において参加型利用を追求している。平行した活動とともに「村 2.0 モデル」が策定されている。</p>
35	<p>・ Regionale 障害者の日常生活を支援するポータルサイトの開設</p> <p>エネペール郡 ノルトライン＝ヴェスト ファーレン州</p>	<p>・ 地域内の障害者を含む関係者をネットワーク化したバーチャルポータルサイトを開設した。障害をもった人々が簡単に使えるように、そしてその介護者が日常的な課題の克服を支援する。これを通じて障害を持った人々の農村地域における、目的に合ったコミュニケーション、情報の入手、複数の情報処理、ネットワーク化をデジタル端末を通じて、バリアフリーを可能にする。そして運動を奨励しそれを補完する。また、労働市場へのアクセスも可能にする。例えば、車への同乗機会の組織化によって。そしてオンライン＝アドバイスタイムの提供、自分で決める毎日の生活について、視覚的、聴覚的な支援、相互支援のためのデジタルネイバーフッドの組織化（インターネットの安全使用のために自発的な市民の援助）。そして個々の職業上の要請のための専門用語の相互チェックを通じて。</p>
36	<p>・ "Smarte karre" 農村地域におけるデジタルでのカーシェアリングシステム</p>	<p>・ 住民 800 人の村共同体において、デジタル革新 E－カーシェアリング提供システムが設立された。この車の相乗りシステムは、APP を通じて組織化されている。同時に村の家族の多くは、第 2/第 3 の車を放棄していることから、この相乗りシステムが可能になっている。</p>

	ヴァイケーシェイム村 バーデンヴェルテン ベルグ州	さらに再生可能なエネルギーとデジタル カーシェアリング提供でもって、エレクトロモビリティ（電気駆動装置による人や物の輸送）でもって、準備されている。既に整備されている公共充電インフラの「プラスエネルギーハウス」でもって、このプロジェクトを可能にしている。このハウスは革新的なエネルギーコンセプトによって建立。屋根に太陽光発電・温水装置、地下水ヒートポンプを活用した環境に優しいエネルギーを利用。
37	<p>・ smates Wohnen im Alter 高齢者にとってスマートな暮らしを。</p> <p>コッヘム ラインラントープファルツ 州</p>	<p>・ このプロジェクトの目的は、人口が減少しそしてなにかと制限のある交通体系において、可動性があり自ら決定する生活と同時に、農村地域における社会的な生活を可能にすること、ないしは家族の負担軽減に貢献する。公共交通機関とサービス機関のネットワーク化が共同によって道を示し、高齢者においても、そして機動性を維持している。</p> <p>さらに高齢者の対象グループが、必要性に応じて簡単に、使いやすい APP が開発され、テストを行っている。この APP は全ての顧客が望む交通機関の道のりを示し、そして高齢者のためにも、必要な情報ははっきりと示し、かつ予約オプション（選択）を提供している。</p>
38	<p>・ VerbraucherzentraleDigiimobil</p> <p>消費者相談センターがビデオチャットやデジモバイルでアドバイスを提供 北部ブランデンブルグ州</p>	<p>・ ブランデンブルグ消費者相談所は特別に改造した車輛の支援でもって、農村地域の人々のために現地に移動し、アドバイスを提供している。18カ所の現地相談所を開設し、定期的にここを訪れて消費者の相談に対応する。個々にはロビー（待合室）があり、Laptop（小型パソコン）が装備されている。遠隔地の消費者とは、ビデオチャットでセンターの専門家と直接対面して相談できる。またデジモバイルのサービススタッフと打合せが可能である。</p>
39	<p>・ Verein3.0</p> <p>地域クラブにおける対話式学習・助言ネットワークプラットフォームの開発</p>	<p>・ 地域クラブ活動のためのプロフェッショナルなノウハウの提供と、特別なオンラインセミナーの活用並びに交流のためのバーチャル（仮想）空間を創り出す。これは特定の地域を越えたネットワーク化を奨励し、クラブ活動を促進し魅力的な農村を形成する。</p>

	<p>オーデンヴァルト ヘッセン州</p> <p>(訳注・共通の目的や興味を持った仲間が定期的に集う組織 — 18~19世紀にヨーロッパで成立した文化)</p>	<p>オーデンヴァルト全地域のクラブ加盟員は、プラットフォームを通じて継続教育が可能である。活動経費をダウンロードし、体験の交流、デジタルネットワーク化で互いに利益を得ることができる。</p> <p>これは総合的にそして対話システムで実施された。加盟員の目的とする資格取得と地域ネットワーク化の奨励を通じて、クラブは橋渡しとしての役割が強化された。設立したネットワークから相互作用と同様に、地域における都市ー地域開発もまた利益を得る。これは長期的な生活ー居住の質的向上並びにインフラ構造の安定化に資する。</p> <p>活気あるクラブ文化と強力なネットワークは、農村地域の持続的な魅力向上に貢献する。</p>
40	<p>・VHS FÜR ALLE</p> <p>デジタルで農村地域の成人教育を強化</p> <p>エムスランド郡 ニーダーザクセン州</p>	<p>・交通が不便な農村地域において、また交通上制限のある人々に、時間一場所に拘わらず継続教育ー資格取得の可能性を、提供している。企業の農村支社又は適切な場所で「学びの居間」において、ライブストリーミング（映像や音声をリアルタイムで配信）/ビデオチャット（インターネットを通じて遠隔地の住民と直接対話するツール）によって、教育コースを提供するために、動機づけする学習環境を整備している。これによって全世代の住民が、文化的、科学的そして社会的な教育提供が可能になった。このデジタルイニシアチブの成果は、農村地域の住民にハイレベルな教育を提供する。これは職業上のそして人間的な自立を促進する。個人的な生活の質的な向上、活動的な市民社会を奨励する。そしてエムスランド郡の経済地域を、持続可能に強化しそしてそこにおける地方自治体の住民サービスを支援する。</p>
41	<p>・連携プロジェクト</p> <p>“VIBS” フォアポームルンの情報ー予約システム</p>	<p>・このプロジェクトの目的は、ポームルン情報ー予約システムを設立し、地域のサービス業と農村地域の産物を、オンラインで予約・販売することである。この支援でもって適切に産物提供者と住民の間のコミュニケーションを、決定的に改善することである。ネットワーク化は、産物の単なる並列を越えている。むしろ、個々の地域産品の提供を互いに組合わせている。</p>

		<p>それは産物の提供者自ら、あるいは地域の代理店または顧客のいずれかによって実施されている。</p> <p>特に小規模提供者もまた、自らの産物をデジタルで管理し、そしてオンライン予約の受け付けを可能にする。ここでは発生する問題の解決もしている。</p> <p>農村地域における多くの提供産物を、特定の期間内で絶え間ない需要に不足をきたすこと。それどころか、オンコール（緊急の呼び出し）も準備されてなかった。しかし、現在このシステム、度々試行され、今では安定化している。</p>
42	<p>Die ” VoluMap” ボランティアマップ APP で農村のボランティア活動の効率的な調整</p> <p>Stadt Gutersloh ギュタースロー郡</p> <p>ノルトライン＝ヴェスト ファーレン州</p>	<p>・ Volu はボランティアそして Map は地図一政策またはプロジェクトのカルテと連動して表示される。これは緊急的または任意で必要とされ、また探索されているものである。このプロジェクトは、t 手伝ってくれる人の獲得に際して、APP で準備されている施設、団体そして研究所が表示される。これを通じて市民的な参画が強化され、将来性のあるものになる。自発的な問題解決と支援がこの APP の前面に表示される。この活動に参加するボランティアは、団体または支援組織に属していないこと。プロフェッショナルな組織の活動並びにボランティア的に設立された支援組織は、いわゆる自由なそして自主的な支援者となる。長期的に結びつかない支援者（例えば若い人）は、短い期間ないし個別プロジェクトへの協力者となる。</p>
43	<p>” Wfg.medPULS” デジタルセルフ健康測定 による遠隔医療診断</p> <p>ソーエースト郡 ノルトライン＝ヴェスト ファーレン州</p>	<p>・ 農村地域の患者ケアが、遠隔医療ソリューション（問題解決）テストによって改善された。</p> <p>この地域におけるデジタル健康ミーティングポイントが設立され、より多くのサブエリア（センター）が生まれた。このエリアは医者と患者の面接コーナーである。具体的には、Eーヘルスーキオスク（セルフ健康測定）で、健康及び病気の状況が自動的に測定され、担当医はこれに基づき診察し、アドバイスをを行う。このシステム利用者には、医療専門家が常に付き添い指導する。このプロジェクトの基盤は、この郡内の開業医の患者へのアドバイス体制とネットワーク化である。</p>

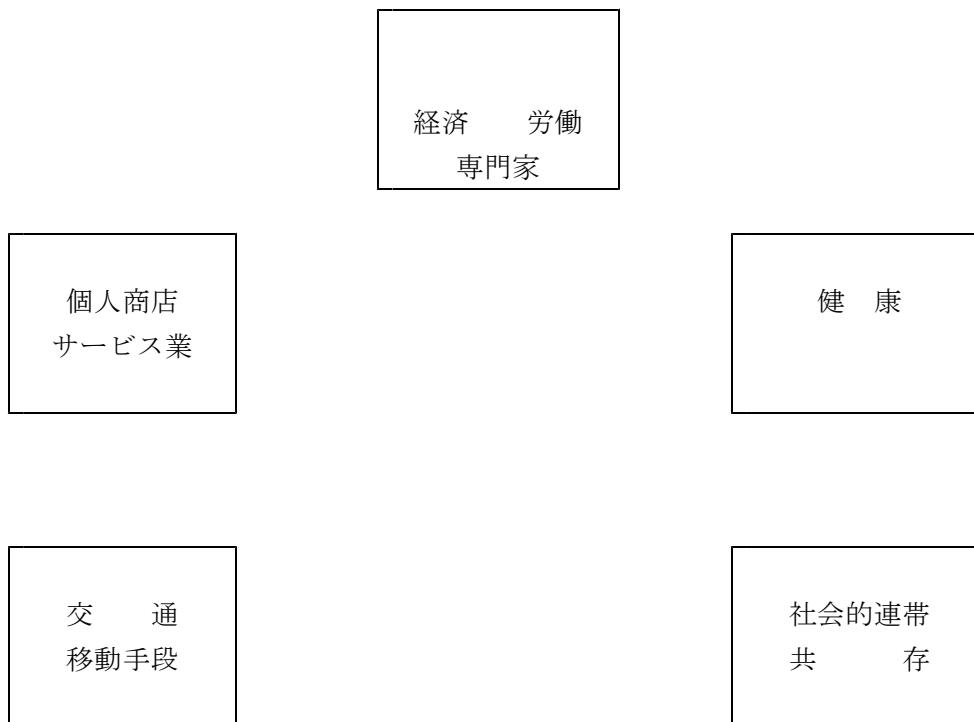
		このデジタルガイドは、以下のテーマに対するアドバイスを提供できる。診断に基づき、患者はどのようにするか対策上のアドバイス。また、デジタル手法によって診察の流れ（ワークフロー）を効率化し、医者と医療スタッフのより良い仕事—生活—バランスを達成できる。このシステムは病気の予防、経過観察（フォローアップ）と健康奨励に有効である。
44	” willkommenskultur4.0” 歓迎文化  デジタル化で村への新規参入者と融合し、人口変動で農村の活性化を推進  バートベルレーブング町 ノルトライン—ヴェスト ファーレン州	・この町の長所は、魅力的な仕事—生活空間の際立った良さである。それは（新）村民、専門家そして観光客の広範な人々に、バリアフリーで接することができることである。町外からの新しい町民はこの村について早急な説明と、適切な情報が必要としている。このため、情報ポータルサイトとして、時流に適ったそして多言語でのデジタル適用を開発している。このサービス提供は、多くの人を惹きつけている。具体的には、オリエンテーリングを行い個人的なリーダーとして、魅力的な仕事—生活空間を町の長所として興味を喚起させる。このために開発したソフトウェアは内容を充実させ、可能な限り他のシステムと接続し、新しい技術開発への首尾一貫した配慮を可能にする。これと並んでハードウェア（情報端末等）を使用できるホットスポットの設置、町の中心の出会いの場や、村の屋外—屋内での WLAN 使用を可能にしている。
連 邦 全 域 対 象	CoWorking auf dem Land  農村でのコワーキング・スペースの設置  キール シュレースヴィッケー ホルシュタイン州	・コワーキング（共同で働く）新しい労働形態として、働く場（大抵フリーランサー、操業開始者）としてのスペースを分けあう。その場を通じてネットワークに接続し、互いに利益を得ることができる。そのため、コワーキングスペースの経営者は、適切な場所とインフラ構造でもって装備する。農村の人々が適切な建物（空き状態）をこのプロジェクトの中で、将来的に活用の可能性としてのコワーキングスペースの設置を理解できている。経営者は、ビジネスモデルと自らのチャンスを理解し、このスペースの設置に際して、長期的に実践することを指導された。



		<p>コワーキングスペースの可能性を、直接経験するために、実践的な試みで理解することができた。そしてモバイルポップアップでもって、様々な地域のコワーキングスペースを紹介する。</p> <p>さらにワークショップ、セミナーそして資格取得プログラム「どのようにコワークを」で、このテーマに関する情報を提供している。</p>
連邦 全域 対象	<p>EFLO ボランティアのオンライン学習への参加奨励</p>	<p>・農村地域において個人と地域が一体となって双方の成長を貢献し合うデジタル学習ツールの開発は、公共の利益のために活用できる。これは自由意思のボランティアを獲得し、この取り組みに動向を可能にする。このオンライン学習システムは、役員またはボランティアコーディネーター(活動の調整)に向けられており、ボランティア奨励に焦点をあてている。多くのフルタイムボランティアを考慮に入れて、共同の組織的な発展プロセスを促進する。イニシアル SWOT ー分析(計画策定に際して現状を分析する)において、非営利団体を立ち上げる。その際、自らの農村環境におけるリスクとチャンス进行分析・把握する。最終的には適切なオンライン学習モジュール(規準単位)を提案する。</p>
連邦 全域 対象	<p>TeleMedicom 農村地域におけるテレメ ディコムー遠隔医療実践</p> <p>ツバイフリーゲン村 シュピーゲルベルグ村 バイエルン州</p>	<p>このプロジェクトの目的は、いわゆる TeleMedicom ー遠隔医療措置ー実践である。これは特別な医療機器を装備して、参画している専門医師が許可されている。患者とのビデオ会話時間を設定し、診断方法の大きな部分がテレ診察で実施している。</p> <p>このプロジェクト領域の中で、ツバイフリーゲンとシュピーゲルベルグ村に設置された週毎の診察時間計画に従って、診察・医療相談が実施された。</p> <p>その際、アポイントメントの合意は、専ら直接行われた。同時に補完対策としてボランティアが、周辺の村々への患者送迎のためのドライビングサービスを行っている。また、平行して医薬品供給サービスを結びつけている。</p>

デジタル化は多様な支援が可能である。例えば、典型的な農村地域における挑戦に立ち向かうプロジェクト「農村.デジタル」でもって、様々なテーマ分野に取り組んでいる。

### 「農村.デジタル」におけるテーマ分野



#### 経済・労働・専門家

農村地域の就業の場の確保並びに専門家の募集との結びつきは、多くの地域の見地から重要な経済政策の目的である。その際、地域企業支援のために、公共サービスの確保と都市空間から、移住による人口喪失の防止が重要である。このモデルプロジェクトを通じて、適切な取組みを試行する。

デジタル化は経済を強化するために、様々な場面に用いることができる。モバイルワーク（好きなところで仕事をする）またはコワーキングのような新しい労働形態の仮想化（コンピュータサイエンス）が可能になる。農村地域は、このことを通じて労働力にとって魅力的になる。これは通勤の解消と新しい労働チームづくりが可能になる。これは専門家不足の進行をくい止めることができる。プロジェクト「農村.デジタル」の中のオフィス―職場を開発する。そして農村地域におけるコワーキング―職場創設のための2つの計画を実施できる。

デジタル化によって企業の労働プロセスを効率的に形成し、それによって競争力を強化する。このため、奨励政策のプロセスの中で観光部分におけるデジタル化による観光税の把握と、その徴収（計算）のための可能性を創り出す。または、1つの地域における観光ビジョンのための中心となる、予約プラットフォームを開発している。さらなるプロジェクトは、幾つかの部門におけるIT専門家のいない小一中企業が、プログラミングのモジュール（機能をひとまとめにしたパーツ）のプロセスを最適化し、利用可能にする。

最終的に従来の経済奨励でもって支援する。例えば、スタートアップシーン（立ち上げ）のためのデジタルプラットフォームによる試行がされる。さらにこのプロジェクトにおける専門家のデジタル支援募集は、地域の労働市場または将来的な労働力確保のために、地元における若者の教育を視野に入れている。



### オーバーフランケン地域の パイオニア

バムベルグ町は、「デジタル  
創業者センター」でもって  
地域の創業者を支援している。

デジタルツールの投入は、青年への職業上のアドバイスと公的に認知されている身体障害者の職業紹介を試行する。

### 1 小売業とサービス業

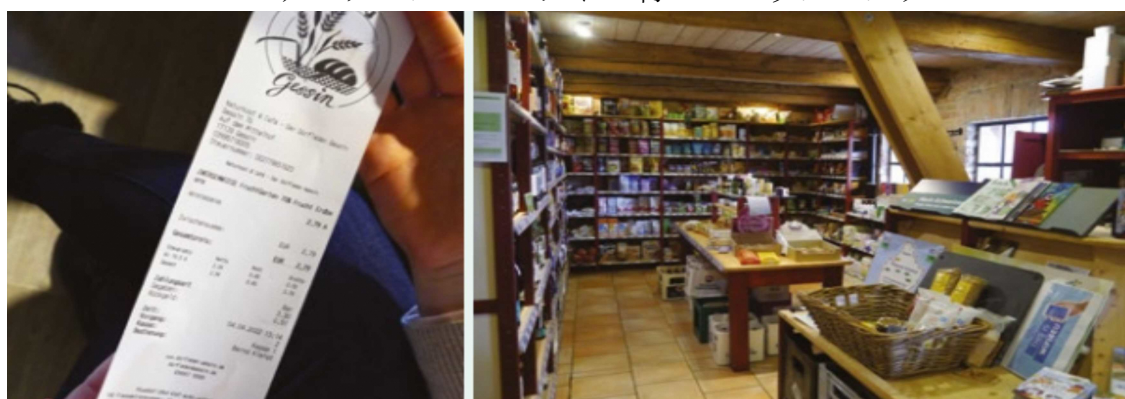
小売業の発展は、他の商品供給分野の発展を明確に示している（銀行、郵便、健康医療サービス、余暇そして文化提供など）。これは農村地域における典型的な挑戦である。

- 農村において減少し、そしてそれに伴って低下する人口密度は、その結果日用品の供給不足と地域産物の供給力低下をもたらす。
- 競争力の強化は、農村地域においても増加している電子商取引（オンライン販売）を通じて高まっている。この傾向は収益性の境にあって、継続している経営のためのゆとりと余地を乏しくしている

○ 競争力のある価格の高品質性基準を確保するために、多様な規模の経営の進出分野を必要としている。これは地域から小売商店の減少が、なお進行しているからである。

この結果において農村地域の人々は、常に遠い距離を克服しなければならない。特に機動力の少ない住民グループにとって、大きな挑戦でもある。同時に地域の人々の出会いの場を無くし、そして社会的に心の支えとなる場の喪失を意味している。

### デジタルプロジェクト・村のショップ プラス



地域同盟・メクレンブルグ シュバイツ協会は、生産経営と地元産品を販売する村の店を支援する。このため、生産情報マネジメント（PIM）を設立し、地域産物に関するあらゆるデータを中心に集積、そしてデータを呼び出しできる。

デジタル化は地域内の物品供給の隙間を埋め、そして機動力の少ない住民グループのこれを届けるチャンスを生み出す。物品供給とサービス業は、オンラインプラットフォームを通じて、より多くの人に届けることができる。このことは物品供給のための大きな範囲を意味し、それでもって販売チャンスの潜在力を高める。地域産業のために役立つことができる。販売業は農村地域の飛び込みお客の減少にも拘わらず、オンラインショップの動向から恩恵を受けて、生き延びることができる。現地の人々は適切な供給機能を前提に、物品の適切な供給から日常生活上の安心を得ることができる。

プロジェクト「農村.デジタル」において、オンライン電子取引の可能性をもった幾つかのプロジェクトの推進者が関わっている。その際の焦点は、地域産物販売のためのプラットフォームにおかれている。このプロジェクトにおいては、地域食料のための産物データバンクが開発された。

例えば、村の店が自らの経営プロセスにおいて支援され、そしてそれによって持続可能な競争力が強化される。この計画においてより強化された市場販売を身につけ、そしてデジタルショーケースで、今ある小売業サービス提供のプレゼン並びにイベントの情報を提供できる。さらに地域の小売業ための商品券でもって、デジタル顧客維持プログラムを開発している。これは地域の中心地を強化するためである。

小売業の他にオンラインサービス業のプロジェクトを委託している。村の中心地から離れた住民へのバスに関するアドバイスは、交通担当者との遠隔通話相談ができる。成人教育センターのテーマコースと講義—実習でもって、デジタル通信もプロジェクト計画の中で試行されている。



村の図書館に併設されている成人教育センター（VhS）



成人教育センターでパソコンの操作を学ぶ。

## 2 医療サービス

地域の小売店で直面している懸念事項と、その他の現地提供で重要なこととして医療サービスが、同じく大きな割合を占めている。農村の中心地域で医療の後退傾向が大きく進んでいる。このため、医療における特別な挑戦が生じている。なぜならば、住民の高齢化の急速な進展でもって、特別な医療の必要性が生じている。例えば、頻繁におこる慢性的な疾患、2つ以上の慢性的な疾患、交通機関による移動可能性の減少など。これらのことが人口減少の結果から、特に農村地域で該当している。

健康分野における農村地域のデジタル化は、遠隔医療の始まりについて、患者をどこでも診察し、そして医療スタッフなど関係者の共同活動を改善する。道のりの長さを減らすことは、交通の便の減る人にとって、医師のもとに行くための負担を軽減できる。そして医療従事者の時間節約も意味している。



さらに農村地域の住民にとって、専門分野の医師の診察を受けやすくする。

プロジェクト「農村.デジタル」において同じく多くのプロジェクトは、遠隔医療の投入を試行している。これは家庭医（係りつけ医）と医師不在の診療所（ドクターレス診療）を通じた、オンライン診察プロジェクトである。これはまた、ビデオ通信アプリを通じて、精神療法までも行われる。

### プロジェクト「Wfg.medpuls」

奨励額：198 000 € （3 168 万円）

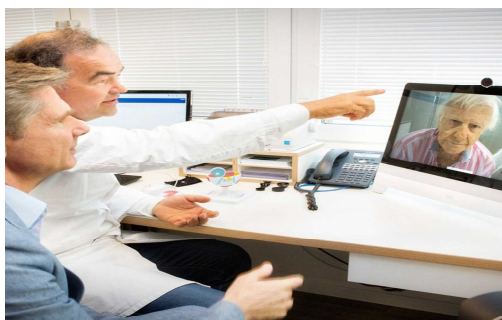
ゾーエスト郡 において、医師が患者ケアを日常的に様々な可能性を試行する。



ゾーエスト医療センターのオープン



農村での遠隔医療プロジェクト



農村高齢者への遠隔医療の試行



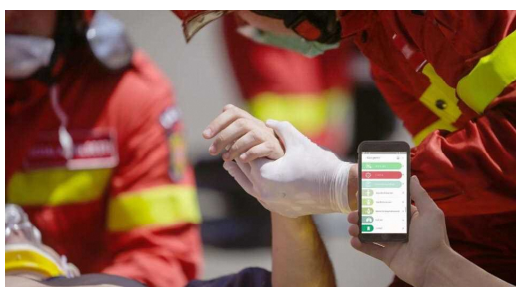
電話アプリで医師から薬の使用が指示

さらにデータのデジタル処理とその提供は、作業プロセスを軽減し、そして全関係者の情報ブースを強化する。例えば、薬局について医学上のプラン電子カルテが導入され、そして薬が自動的に提供する。さらなる計画は、患者に介護の必要性、親族と医療従事者が適切に医療—介護システムとデジタル支援の可能性について、情報提供を行う。

このため、ウェブサイトで支援された情報プラットフォームが稼働し、養護施設に介護ロボット導入の可能性を試行する。また、このプロジェクトはさらに翻訳アプリを開発している。レスキュー（救急）サービスにおいてドイツ語を、話せない外国人患者とのコミュニケーションを簡単に行える。その後、収集したデータを主に病院に引き渡す。



養護施設における介護ロボットの試行



翻訳アプリ使用で外国人との会話



世界 17 カ国の言語の翻訳 APP



ゲッティング大学医療センターが APP を開発



デジタル技術による救急遠隔診療

### 3 交通サービスとモビリティ（機動性）

農村地域の住民モビリティは、プライベートな乗用車によってより多く広まっている。2018 年には約 90% の家庭で最低 1 台の車をもっている。だがしかし、農村部は都市部に比較して公共交通機関（ÖPNV）が、非常に制限されている。





#### 4 一緒に住み社会的な結束を

住民相互の支援とボランティアの参画は、農村地域における共同体の柱である。住民の高齢化の進展と若い人々の流出によって、近隣または村内における思いやりのあるコミュニティが、重要になっている。さらに農村地域における余暇の利用と自己管理は、基本的に団体（クラブ）または政治的な役職（村の役員など）においてのボランティア活動が基礎になっている。そのため、この構造は将来的にも維持され、そして現地の人々自らの参加でもって支援される。

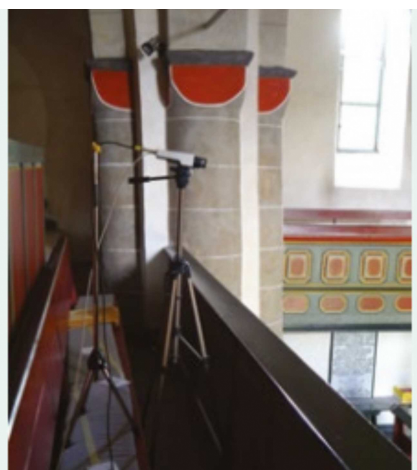
デジタル化によって社会的な交流は、地域の人々に過度に依拠しないで可能になる。これえは多くのプロジェクトを活用し、地域に社会的なネットワークを導入する。これはむら共同体または選定された人々のグループ（例えば高齢者）が、互いに連絡をとり合う。さらにテーマ分野における「提供と需要」を、デジタルで互いに実行することが重要である。

「農村.デジタル」においてボランティア分野での参加が、適切な活動をもたらす。特にこれは自発的または時間的に限定された参加の価値が多い。ボランティア的または文化的な分野から、地域でのサービス提供が良く知られ、そしてイベントを通じて情報提供されるために、幾つかの計画においてデジタルコミュニケーションチャンネルを利用する。団体は自らの活動において、オンラインを通じた学習—トレーニングを利用できる。さらにデジタルでの仕事のためにの補助手段も使用可能である。

#### デジタル村



デジタル化は、ラウムラント村への訪問者に村のコミュニティハウスから日々の情報を提供。



教会からカメラで家庭にミサを送る。

### 第Ⅲ章 デジタル化の恩恵：これがその方法―現地事例

このプロジェクトにおいて多様なテーマの分野が取上げられ、そしてデジタルでの問題解決へのアプローチが試みられている。オンラインイベント、バーチャル相談、インターネット市場、村ネットワークそしてさらに多くの試みがなされている。農村地域における生活と労働への支援のために、デジタル化の可能性は多様である。以下においてモデル的な「農村デジタル」奨励政策から、成果多い方法が示されている。

#### モデルプロジェクトにおけるデジタルでの問題解決

計画している問題解決へのアプローチは、いわゆる「デジタル化構想」で4つのタイプに分類される。このデジタル構想は、構造に関して区別ユーザーと利用の役割を区分する。

タイプ A：情報提供と結びついたプラットフォームである。例えばオンライン市場またはデジタル求人広告である。

タイプ B：ソーシャルネットワークである。これはバーチャル空間での情報交流とコミュニケーションを可能にする。

タイプ C：今あるサービスを仮想化したプロジェクトを内容としている。例えば健康分野におけるビデオ会話または教育分野のオンラインコースなど。

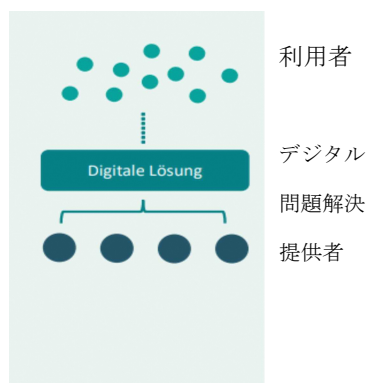
(タイプ A、B そして C は、デジタルでの様々な問題解決を説明している。)

タイプ D：これは他の3つのタイプとは基本的に区別される。多方面に広がる利用、“デジタル革新の普及”のキャッチフレーズのもとで、独自の技術的問題の解決でなく、既に他の分野で使用されているデジタルの応用または作業方法によって、農村の状況に応じて試行する。

4つのカテゴリーについては理念型である。実践において幾つかのタイプの要素を、幾つかの関係者の計画に組み合わせる。

## タイプA：情報サービス提供の結びつきのためのプラットフォーム

プラットフォーム上に多くの関係者の提供が結びつき、そして利用者に関連されるか、または予約される。プラットフォームは、個々の関係者または提供者の結びつきを行う。デジタルでの問題解決のための支払い意向は、特に追加の売上げを生み出すチャンスにつながる。提供者と利用者のための魅力は、大きな市場割合をカバーするか、または可能な限り大きな提供を含むことである。この観点において重要な規模に達することは、成功に不可欠である。



可能性：

- 一 個々のサプライヤー（供給）のデジタルプラットフォームの経営コストの削減
- 一 多面的で主に目に見えそれでもって魅力的な供給
- 一 提供のサービス向上と利用者一顧客圏の拡大
- 一 補完的なサービスの負担能力（例えば供給）

プロジェクト「農村。デジタル」の事例：

- 一 地域産品の市場出荷プラットフォーム
- 一 モビリティサービスのためのインフォメーション予約プラットフォーム
- 一 旅行提供の予約プラットフォーム
- 一 地域における求人プラットフォーム
- 一 地方の予告イベント情報プラットフォーム



農村におけるデジタル化促進会議



牛乳市場の価格動向をリサーチ

## ◎ オリент | 地域で生産される食料のオンラインー地域市場

ザクセン州北部にあるアルトマーク地域において、既に前のプロジェクトから地域オンラインー市場ができていた。このプロジェクト・オリентにおいて、地域で生産されている食料に関する市場のオンライン・パレットが拡大されている。これは貯蔵性のある冷凍または最低限冷蔵されねばならないか、または標準化されずに提供される（例えば、チーズ製品 貯蔵産品によってその重さが異なる）。そのため、計画はオンラインも標準化されてない産物が、法順守を可能にするようなプロセスを開発する。

さらに無停電電源装置による冷蔵でもって、物流を組み立てることが有効である。消費者がオンラインショップ ”ハローアルトマーク” で、独自に設立した「REGOMA アルトマーク UG」において、多様な生産者から及び沢山の地域産物から選択し、これを各家に供給する。



オリентは地域で生産された食料を提供する。

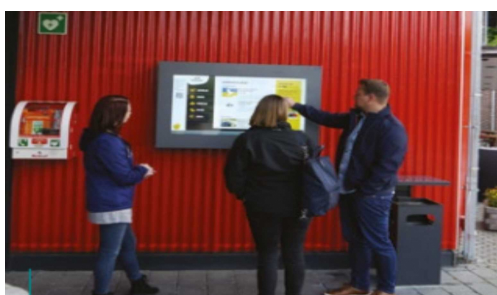
## ◎ 歓迎文化4.0 人々が集合化しそして人口変動を再編

バート ベールレーブング町の 23 の集落について、地域からの情報とサービス提供するデジタルポータルサイトにアクセスする。内容については、特にハイキングと町役場からの情報を伴ったバーチャル空間、イベントカレンダー、天気予報などである。この町は全体的な提供のさらなる発展を望んでいる。内容は、都会のインターネットサイトのためのインターフェース（2つの主体を接続する箇所）を通じて、自動化されている。これは地域におけるイベントカレンダーと観光客の見るべきところを、オープンデータソースについて、ポータルサイトに記録されている。各集落については、独自のデジタル村ーダッシュボード（複数の情報源からデータを収集し、概要をまとめて表示する機能）を提供している。



各集落については、自らのデジタル村ーダッシュボードが与えられている。集落のボランティアは、編集チームの一員になっている。そして村の活動が個人に入る。情報は新しい町民並びにお客にも提供される。

そして多くの多言語への需要についても対応できている。町の地域においてタッチパネルが導入されている。これは村ーダッシュボードを利用することが、自らの端末のオンラインだけでなく町の中心地にも可能である。公立図書館との連携で、サードプレイスー未来の図書館は、さらに公的な「読書かご」に幾つかの陳列を施している。



炭鉱廃業後に村民交流センター建設。  
施設内はタッチパネルで案内



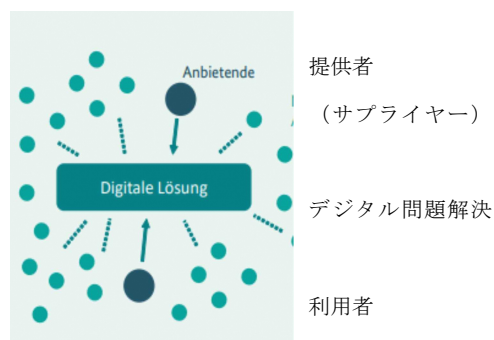
交流センター（右側）のそばに  
「読書かご」を設置

## タイプ B | 社会ネットワーク

社会ネットワークは、人々と利害関係者が交流、または具体的な出会い無しに情報交換に参加出来る、また社会ネットワークは、魅力が多く活用数によって増

大するために、利用者の受入れに強く依存している。

この理由から、農村ーデジタル計画を通じて、地域からさらなる関係者の活発な参加、または編集上の支援による参画によって、コミュニケーション・プラットフォームの価値を高める。



可能性：

- ー 遠距離でのコミュニケーションと情報交換が可能
- ー アナログ空間ではできない人々/関係者と交流可能

「農村。デジタル」の事例：

- ー 隣人プラットフォームとデジタル村ネットワーク
- ー 高齢者のための社会ネットワーク
- ー 青少年のための参加ーネットワークプラットフォーム
- ー 設立者起動シーンの地域交流プラットフォーム
- ー ボランティア支援ないし参加のための仲介プラットフォーム

## 現地事例

### ◎ プレムケ集落 デジタル | 共存のためのデジタルプラットフォーム

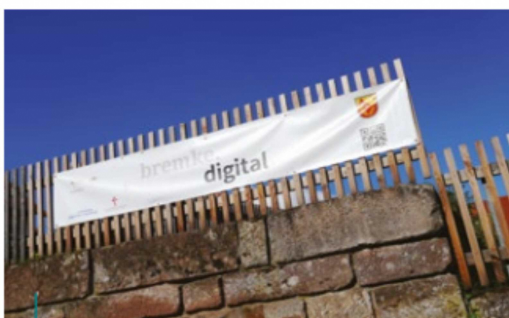
単一共同体グライヒェンにおける集落のプレムケにおいて、生活の質的向上のための議論ー参画プロセスの中で、デジタル問題解決 フラウエンホーフ「農村。デジタル」を手段に試行し、さらに進展させる。目的は村のウェブサイト「DorfFunk(村のラジオ)」と「DorfPage(村のページ)」の利用でもって、活動への参加、村における近隣の人々とのデジタル・コミュニケーションを強化することである。

「DorfPage」は、村からの重要なあらゆる情報を記載している。「DorfLaden(村の店)」に設置しているデジタル・ショーケースは、通りすがりの人、好奇心旺盛な人に情報を提供している他、村の行事のスケジュールを載せている。村の人々は「DorfFunk」ーアプリでもって、そのまま村の人々とコンタクトがとれる。

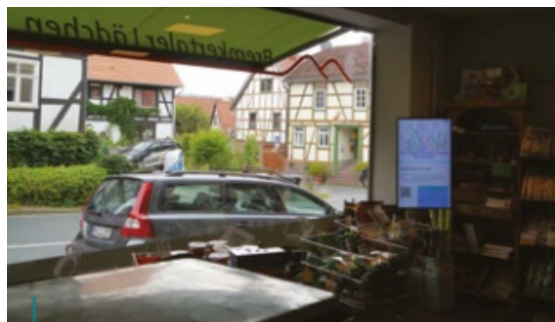
成功に不可欠なことは、ボトムアップ・アプローチ(データに基づき意思決定)の意味における、村共同体との密接な結びつきであった。人々は共同で自らの要求を、デジタル化に問題の解決を託した。

デジタル利用に際しては、専門家によって指導・支援された。コロナパンデミックに条件づけられた人々の接触制限の間中、コミュニケーション・チャンネルとして、デジタルツールが定着した。そして新しく複雑な村落共同体への最初のデジタル出発点が提供された。「DorfPage」と「DorfFunk」は、最終的にグライヒェン村における「グライヒェンデジタル」のもとで、合計 16 集落に拡大している。このモデルプロジェクトへの取組みでもって、集落の境界を越えた交流とコミュニケーションを可能にしている。

このデジタル提供は、まず第一に奨励の実施後にニーダーザクセン州のプロジェクトの分野において、財政投入がされる。この村は奨励の終了後、現行の「DorfPege」の編集上の仕事を、ボランティア活動で実施し、さらなる投資が約束されている。



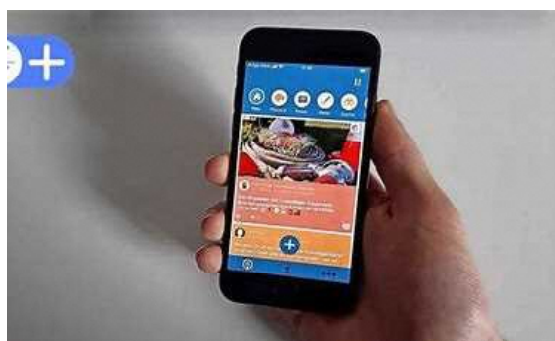
村のメインストリートに「RndFunk」のQRコードを表示した横断幕を設置



デジタルショーケースのある「DorfLadn」



「DorfFunk」のPR活動



「DorfFunk」ーAPP



高齢者もスマホで村の情報を入手



ボランティアが「DorfFunk」の編集を担う。

### ◎ 青少年の対話への参加そしてネットワークプラットホーム

この計画は、青少年が社会的、政治的な参画のために活気づけ、そして地域との一体性を強化することが目的である。このため、”我々の BIR” という名の参画—ネットワークプログラムを開発した。これについて青少年は、農村地域における生活の改善のための自らのプロジェクト計画を提出している。提出されたプロジェクトは、青少年からのスポンサー、チームの設置要望を求めている。

そしてプロジェクト実施の際の考え方も求めている。例えば、アール溪谷における水害への寄付活動またはメディア リテラシー（メディアを使いこなす基礎的な素養）のための学校プロジェクト、さらなる着想はスポーツ施設の新設から、地域の音楽バンドの移動コンサート用舞台備品の購入にまで及んでいる。さらに補完するのは、ブログを通じて地域の人々に余暇活動、イベント、プロジェクトそしてボランティア活動まで報告している。

ここではさらに青少年にとって重要な情報が準備されている。例えば、青少年センターの提供または若者タクシー（若者を対象としたディスコからの夜間帰宅の安全を保証するための料金補助等）など。これまでの経過では、プロジェクトホームページは、若者に良く見られている。期待されて成果の多いのは、ソーシャルメディアを通じたコミュニケーションである。（例えば、プロジェクトのインスタグラム—アカウント）

このプロジェクトの参加調整するコーディネーターは、周囲の多面的な課題を伴った広報活動を行っている。さらに成果多いのは、青少年との直接的な人的コミュニケーションである。プロジェクト構想は、特に学校におけるワークショップのような、アナログサイズを通じて生み出されている。若い人々は、多くのテーマに向き合っている。最も大きな成果はプラットホームで達成されている。いずれにせよ、これは既に対象となるグループによって用いられている。青少年の場合、それはインスタグラムにある。この事例は、インスタグラム上でのストーリー機能である。その際、青少年達はハードル無く質問に多くのことを回答できる。





学校プロジェクト・メディアリテラシー



プロジェクトの拠点 青少年センター



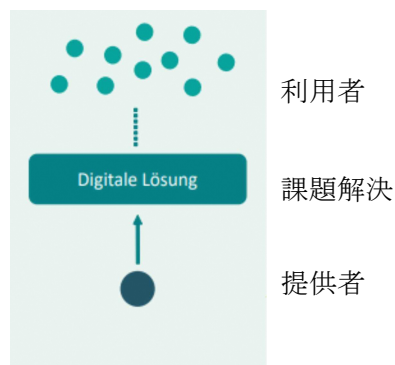
アール渓谷の水害の寄付活動に取り組む



ディスコ帰りの夜の安全を保証する若者タクシー

## タイプC | サービス業の仮想化

このプロジェクトにおいて、主に今あるアナログサービスをデジタル化ないし仮想化する。通常はオンライン提供を通じて、対面で提供されるコミュニケーション、アドバイス又は情報提供をデジタルに取り替える。



### 可能性：

- ー サービスの提供と利用のための時間/または車の節減
- ー 個々に提供されるサービスの効率性の向上とそれを通じたコストの削減  
加えて高いカバー率のチャンス（例えば、医師が同時間においてより多くの患者への対応可能）

### 「農村。デジタル」の事例：

- ー オンラインで実施する精神療法
- ー オンライン消費者アドバイス
- ー 成人教育センターのライブストーリーミング（データを受信し同時に再生する）

- ー 救急（レスキュー）サービスにおける翻訳アプリ
- ー デジタルデータ収集と観光税の決算
- ー 青少年のためにビデオ会議、チャットボット（ユーザーの質問にリアルタイムで回答するシステム）、デジタル学習プラットフォームを通じた職業指導
- ー 協会、団体等の学習ーアドバイスプラットフォーム

## 現地事例

### ◎ インターネットベースの心理療法 | オンラインによる行動療法的な心理療法の実施

農村地域における広範な心理的治療でもって全面的な介護提供は、かなり困難な状況にある。治療の場の少ないことと並んで、患者と空間的に大きな距離があること。そしてこれが療法提供の障害になっている。このことは特に交通上の制限のある人、特定の不安のもとで苦しんでいる人、または自ら置かれている状況の中で制限のある人に該当する（例えば、職業についている人、ひとり親、家族介護者等）。

このため、マインーシュペスアルト郡における地区病院が、オンラインで実施する療法提供システムを開発している。会議はデジタルビデオ会議によって開かれる。堅実な管理を通じて患者は、自宅で自分のカウンセラーと話すことができる。このプロジェクトにおいてどのように診断し、そして患者のための治療に際してどのように有意義な対応ができるか、ビデオ会議で試行する。

このプロジェクトの経過において精神療法上のビデオ会議相談を、健康保険からこの提案の支払いを選択的な給付として、実践における治療を認可する。

このポジティブな経験のもとに、医院からプロジェクト終了後もまた、ビデオ伝送によるデジタル精神療法会議をさらに実施する。



ビデオによる心理療法の実施



病院におけるビデオ会議

## ◎ デジタル消費者センター | ビデオチャットによるモバイル現地 アドバイス

ブランデンブルグ消費者センターは、消費者のために特別に改造された自動車でもって、農村地域の現場でビデオチャットによる個人的なアドバイスを提供している。これは消費者のために、広範囲な法律相談を可能にするものである。

連邦から奨励されているパイロット段階のプロセスで、北部ブランデンブルグにおける”デジモバイル”を、16の現地とメクレンブルグ フォーポーマーレンにおける2つの現地で実施された。

これは最寄りの現地市場または市役所の前で、月に一度現地ステーションで開催された。このために改造された自動車は、バリアフリーで入り易くそしてロビースペースと、スクリーンのある相談室が利用できる。そこは座ることができ、そしてラップトップ（携帯用パソコン）が装備されている。消費者はビデオチャットによって、消費者センターのアドバイザーとつながることができる。現場でのオリエンテーションは、様々なサービス提供者によって開催される。

消費者は様々なテーマについて、デジモバイルにおいて情報資料が閲覧できる。サービスのもっと必要な人に対しては、さらに資料をコピーして提供する。ポジティブなプロジェクト評価によってブランデンブルグ州議会は、州北部地域において継続運用のため2020年に財源を決定している。2022年始め以来、南ブランデンブルグにおいて16地域においてさらなるデジモバイルを提供している。



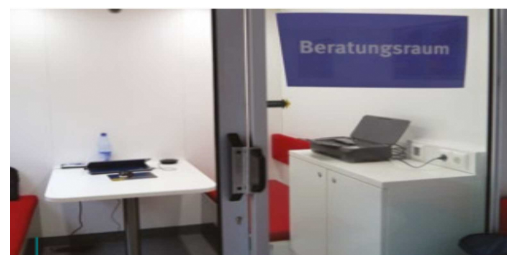
消費者センターと改造自動車



ビデオチャットによる消費者アドバイス



自動車の中の相談室



内部にラップトップを装備



## ◎ 外国人救急ケーニッヒスルター | レスキューサービスにおけるドイツ語を話せない患者とのデジタルコミュニケーション支援

このプロジェクトにおいて救急サービスにおけるドイツ語を、話せない患者とのコミュニケーションを容易するアプリが開発された。特に救急サービスにおいては、身体的苦痛を早急に判断することが重要である。そしてそれに対して適切に処置し、フォローアップ（治療）を計画できるために重要である。ここではレスキューアプリの支援がこのことを可能にする。

このアプリは、異なる言語を話す中で重要なフレーズ（ある程度決まった言い回し）を、自由に使えることを可能にする。そしてこれをもってレスキュー隊員は、患者の病歴を尋ねることができその情報を入手できる。引き続きスムーズなフォローアップを確保するために、救急隊員から病院スタッフに対して、コミュニケーション記録が引き渡される。子供達にもこのアプリを通じて、子供に適した言語で対応可能である。救急活動との密接な共同活動において、このアプリの適切な使用のために、言語テキストの構成要素と患者の体調調査方法が開発された。

このアプリは、2023年始めまでに既に10万回以上ダウンロードされた成果をもって、ニーダーザクセン州健康賞 2020 のカテゴリーで「e-Health (e-ヘルス)」(訳注) デジタル課題解決挑戦の時代で表彰された。

(訳注—情報テクノロジーを有効に活用したヘルスケアサービス)



外国人とレスキュー隊員との  
コミュニケーションアプリ



母国語で会話可能なレスキューアプリ



病院スタッフ向けの患者アプリ



レスキューアプリを開発したゲッチン

## ◎ デジタルーゲストカードシステム ウェルカムパス | 旅行上重要なサービス提供と結びついた決済システム テクノロジー

このプロジェクトにおいて、地方自治体の責任と観光事業との密接な共同活動が、デジタルゲストカード（ウェルカムパス）使用のためのアプリケーションを開発した。両方の基本的な基礎は、宿泊客の登録フォーム（お客の情報や問い合わせを効率的に収集するためのデジタルツール）の処理と、スマートフォンを通じたお客による観光税の支払いである。

これでもって休暇客のための観光税支払いが、受入れするホストサイドの労働費支出も一緒に行い、自治体によって割引きも適用される。このアプリを通じて日帰り一宿泊客は自分の観光税を支払い、それを通じてどのような優遇措置が得られるか知ることができる。例えば、その地方の施設または公共交通機関のチケット割引きが可能になる。

このシステムの支援でもって、地方の観光提供そして保養地で観光税の支払いしない日帰り一宿泊客からの収入損失を減らせる。これまで公的な統計の把握がされてなかった宿泊が、これによって基本的な構成要素への組み入れが可能となる。お客を受入れするホストサイド並びに地方自治体について、デジタル観光税支払いは明らかに管理コストを減らし、そして行政の評価一管理機能の強化を期待できる。

パイロット自治体・フェーマルン（ドイツ最北端の島）は、2022年にこのウェルカムパスでもって、最初の行政デジタル化賞を獲得している。



ウェルカムパスは常にスマートフォンに



電車や公共施設の無料または割引のゲストカード

地域の博物館等の入場割引き出来るゲストカード



フェーマルン島が 2022 年の  
行政デジタル化賞を受賞

ドイツ最北の島で海水浴

フェーマルン島のデジタル  
ゲストカード

## タイプ D | デジタル イノベーションの普及

タイプ D の「農村.デジタル」計画において独自の技術解決ではなく、農村地域におけるデジタルでの課題解決の支援である。これは最初の適応または既に今ある農村の地方自治体におけるデジタル革新の普及である。このようなプロジェクトの主な挑戦は、農村地域におけるデジタルサービス提供の容量であり、具体的な導入マニュアルを可能な限り結びつけている。

その際、農村地域における特別な適用に配慮する。



デジタル課題解決

### 「農村.デジタル」の事例

- ー コワーキングスペースに対する支援
- ー 保険衛生機関におけるデジタルアシスタントシステム投入のための可能性に向けた意識向上
- ー 小一中規模企業における独自の IT ー専門家無しでのデジタル問題解決の実践プログラミングキット
- ー 村落を背景とした E ーカーシェアリング
- ー チャットーボット (自動的に会話するプログラム)、デジタル学習プラットフォーム、ビデオ会議を通じた青少年のための職業オリエンテーション
- ー 団体のための学習ーアドバイスプラットフォーム





農村地域における coworking スペース



ソーシャルメディアによる就職情報を

## 現地事例

### ◎ 農村における coworking | coworking スペースの建設、アドバイスと支援そしてネットワーキング

このプロジェクトにおいて、農村地域の coworking を支援する。対象となるのは個人的な設立者、農村の地方自治体、適切な働き場を提供する者である。キール（訳注・バルト海に面したドイツ北部の都市。ハンザ同盟加盟）近郊の東部丘陵地帯にある農村地域において、このプロジェクト実施の中で多くの coworking スペースが生まれている。ネットワークの提供でもって、この coworking 構想をテストされ、現地の分析、検討がワーキングショップを通じて実施された。また、ポップアップ coworking（一時的な coworking スペース）も試行された。

プロジェクトの実施の中で協同組合「ワークランド eG」が設立され、全ドイツ及びオーストリアにも coworking スペース設置のアドバイスなど、支援を行っている。このためにネットワークノード（データ処理システム）を構築し、機能を果たしている。事務所の分散型構造は、 coworking 会社設立に興味ある人の利便性を保証している。シュレースヴィックホルシュタイン州大臣・当局との共同によって、追加的に上昇気流がもたらされた。この間に協同組合のオンラインプラットフォームを通じて、 coworking スペースが連邦全域で求められ設置されている。



村の設置した coworking スペース



役場の施設を coworking に提供



自然の風を体感しながら仕事を



農村に多いゲストハウス  
(1階食堂 2階宿泊室)



1階の食堂をコワーキング  
スペースに提供



教会の中でコワーキング  
(両サイドにボックス  
真中に長机を配置)



お城もコワーキングに参加



城内のコワーキング室

### ポップアップコワーキング (一時的)



こんなスタイルも



自然の中に溶け込んで



どこでもスペースを



バスの中にスペースを



建物の一角にスペース

託児所・コーヒー  
付きのスペース  
ー 49 ー





## ◎ スマート カーシェアー | 人と車ー農村におけるカーシェアリング

シェーフスターハイム村は、住民 800 人の村落共同体であるが、公共交通機関の提供が著しく困難である。住民は仕事、買物、医師との予約そして其の他様々な用事を公共の乗り物の代わりに、プライベートな乗り物に頼らざるえなくなっている。このプロジェクトにおいて、Eーカーシェアリング（電気自動車）の提供で大きく変化させている。車はこの地域にあるプラスエネルギー農場の建物で生産している電気で走る。

ここで開発されたアプリは、車のレンタル利用を可能にしている。このプロジェクトにおけるカーシェアリングは、村びとを買物や病院に連れて行くために、ボランティアの運転手プールも存在している。高齢のためにもはや自分で車を運転しない人、車の無い人もこのシステムによって恩恵を得ることができる。農村地域におけるカーシェアリングー提供の挑戦は、車の十分な利用密度が減っているにも拘わらず、大きな成果を挙げている。

この計画において 4 台の車がさらに、プロジェクト責任の社用車として役割を果たしている。これは必要な基本的使用方法について配慮されている。既に公的なプロジェクト開始前に、5 人のチームが編成されている。これは電気自動車での走行と車の予約を、集中的にテストを行ってきている。これは既に村民の関心と信頼を得ている。村民互いの交流のために、様々なイベントと会合が組織されてきた。

特別に価値多かった交流は、Hof 8(農場)における「常連テーブル」の活用であった。このカーシェアリングに未登録の人々は、ここで電気自動車にテスト乗車し、そして多くの質問によって、確固たる疑念をすっかり除去できた。そしてスマートカーシェアリングの簡単な使用について、個人的な納得を得ることができた

カーシェアリング用の電気自動車

農村では貴重な移動手段

自動車用蓄電機





上段一かっの農場を太陽光など自然エネルギーでの発電所  
 下段一カーシェアリング用の車 ここで生産された電気で走行する。

訳注：ドイツのカーシェアリングは、自分で車を所有するのではなく、会社等が所有し、  
 利用者は実際に発生した料金を支払うシステムである。

### ドイツの未来の農業・農村をデジタルで担う子供達・青年達



幼稚園でのデジタル教育

経営管理はデジタル化

デジタルで農作物の生育管理



デジタル農業の未来を担う農業青年達

発行者：

ドイツ連邦食料・農業省 第 824 課 10117 ベルリン

専門担当者：連邦農業食料庁 農村発展専門研究所

デイヒマン Aue 29 53179 ボン [bule@ble.de](mailto:bule@ble.de)

TEL:+49 (0) 228 6845-2602

発行：2023 年 10 月

原文：連邦食料・農業省 連邦農業食料庁

問い合わせ 研究—アドバイス有限公司

レイアウト：EWERT/GRAFIK Königswinter

印刷：MKL 印刷有限公司 Graf-Zeppelin - Ring 52

48346 ostbevern

この出版物は、連邦食料・農業省から無料で提供されている。

この出版物は、販売してはならない。

これは選挙において政治的な党またはグループにおいて、使用してはならない。

さらなる情報は [www.bmel.de](http://www.bmel.de)



